

産科

伴 千秋

産科は、異常なく経過した人だけでなく様々な合併症をもった妊娠にも、できるだけ自然なお産を体験してもらえよう努力している。

産科的合併症は経過が急で母体・胎児に重篤な異常を来すことも多い。またそれ以外の合併症も、非妊娠とは異なる病像を呈したり、妊娠経過に重大な影響を与えることがよくある。このような場合、従来の産科診療は、「とにかく早くお産を終わらせる」ことに重心を置きすぎていた様に思う。子宮内の胎児の状態を知りようもなく、言わばブラック・ボックスを扱っているようなものであったからやむを得ない面もあったが、例えば糖尿病妊婦では、妊娠中に胎児が胎内死亡することがあるために、糖尿病の重症度にしたがって数週間以上も人工的に早産させていた。その結果救われる児もあったが、逆に早産のために死亡したり重篤な後遺症を残したりした児も多かった。

しかし胎児心拍モニタリング・超音波断層法が導入されて子宮内の胎児の状態を推測することが可能となり、個々の事例に応じたリスク管理をすることが可能になってきた。新しい知識・技術を駆使して「とにかく早くお産を終わらせる」という診療の陰の部分のを是正し、症例に応じた適切な個別管理を行うことを通じて、より適正な診療体系を作っていくことが当科の基本目標である。

また小児脳神経外科グループと協力して、水頭症など先天性中枢神経奇形をもつ胎児の出生前診断と治療を数多く手がけるほか、当院がエイズ診療拠点病院であるため、HIV 合併妊娠の管理にも積極的に取り組んでいる。

※ 産科の業績は、婦人科と共に掲載

婦人科

伴 千秋

婦人科は、大阪における子宮癌治療の草分けとして出発・発展し、全国でも屈指の婦人科癌治療施設として、世界産婦人科連合（FIGO）の悪性腫瘍登録機関の1つに選ばれている（我が国では当院と岡山・熊本・長崎・北里大学の5施設）。診療の中心は「がん」であり、入院患者の大部分は悪性腫瘍患者で、年間の症例数は150例前後である。

このような日常の診療の中から浮かび上がってくる「癌患者の妊孕能や排尿を始めとする日常生活機能の温存」、「5生率が十分でない進行癌患者に対する、化学療法を含めた集学的治療の効果」などを当面の課題として、手術術式の改良・手術適応の見直し・最適な補助療法の組み合わせの検討などを進めており、その成果を順次発表している。

また、子宮筋腫や卵巣嚢腫をはじめとした良性疾患においても、術後後遺症の最少化・必要な機能の温存を第一義とした治療を旨としている。

【2010年度研究発表業績】

A-3

八木治彦、小西郁生：女性特有の救急医療—プライマリケア「II 婦人科領域. 6 婦人科手術後の合併症があったら. レジデント」3：P.72-80、2010年4月

岡本尊子、松村謙臣、万代昌紀、大浦智紀、濱西潤三、馬場長、鈴木彩子、八木治彦、小西郁生：原発性卵巣粘液性腺癌および転移性卵巣癌の鑑別；臨床情報および分子発現に基づいて「産婦人科の進歩」62：P.44-48、2010年4月

渡辺悠里子、松本久宣、神谷まひる、松原尚子、伊東裕子、西村史朋、宮崎有美子、佐々木浩呂江、八木治彦、山田成利、岡垣篤彦、細木拓野、伴千秋：リンパ節転移の術前診断におけるPET-CTの有用性「産婦人科の進歩」62：P.273-276、2010年4月

鈴木彩子、馬場長、八木治彦、小阪謙三、万代昌紀、小西郁生：卵巣癌の診断におけるPET-CT検査の有用性「産婦人科の進歩」62：P.292-295、2010年4月

岡垣篤彦、東堂龍平、是恒之宏、中島伸、和田晃、楠岡英雄：電子カルテの記載内容の質の評価の試み「医療情報学」30(suppl.)：P.838-841、2010年11月

B-3

大堂さやか、中井朝子、小山貴、富樫かおり、三上芳喜、八木治彦、吉岡信也、藤井信吾：腹膜硬化症を伴った黄体化莖膜細胞腫の1例。第69回日本医学放射線学会総会、横浜、2010年4月8日～11日

濱西潤三、万代昌紀、松村謙臣、馬場長、山村省吾、吉岡弓子、岡本尊子、姜賢淑、安彦郁、八木治彦、小西郁生：卵巣癌局所における免疫環境を推測する新たな解析法とその意義。第62回日本産科婦人科学会学術講演会、東京、2010年4月23日～25日

佐藤浩、鈴木彩子、馬場長、金本巨万、安彦郁、西村浩美、八木治彦、万代昌紀、小西郁生：卵巣外進展を呈した卵巣 Serous Borderline Tumor 4例の臨床病理学的検討。第62回日本産科婦人科学会学術講演会、東京、2010年4月23日～25日

吉岡弓子、濱西潤三、馬場長、松村謙臣、八木治彦、万代昌紀、小西郁生：MorphogenによるT細胞分化とサイトカイン産生の制御。第62回日本産科婦人科学会学術講演会、東京、2010年4月23日～25日

金本巨万、鈴木彩子、八木治彦、馬場長、小阪謙三、万代昌紀、小西郁生：幼児期の性器形成術を経て成人後に根治的成形術を施行した先天性副腎皮質過形成の1例。第62回日本産科婦人科学会学術講演会、東京、2010年4月23日～25日

宮崎有美子：婦人科癌根治手術および術後照射による癒着性イレウスの発生頻度と重症度に関する検討。第62回日本産科婦人科学会学術講演会、東京、2010年4月23日～25日

神谷まひる：子宮悪性腫瘍手術の際に後腹膜リンパ節のリンパ脈管筋腫症を認めた2症例の検討。第62回日本産科婦人科学会学術講演会、東京、2010年4月23日～25日

山村省吾、松村謙臣、濱西潤三、山口建、馬場長、鈴木彩子、八木治彦、万代昌紀、小西郁生：卵巣癌大網転移巣におけるTGFBR2発現と、卵巣癌に対するTGFβ阻害剤の治療効果の検討。第48回日本婦人科腫瘍学会、つくば、2010年7月8日～10日

鄒沙織、鈴木彩子、馬場長、八木治彦、小阪謙三、万代昌紀、小西郁生：卵巣悪性リンパ腫によりPseudo-Meigs症候群を呈した1例。第48回日本婦人科腫瘍学会、つくば、2010年7月8日～10日

B-5

安本晃司、鈴木彩子、鄒沙織、馬場長、八木治彦、小阪謙三、万代昌紀、小西郁生：卵巣悪性リンパ腫によりPseudo-Meigs症候群を呈した1例。第122回近畿産科婦人科学会学術講演会、京都、

2010年6月19日～20日

北原朋子、鈴木彩子、馬場長、八木治彦、小阪謙三、万代昌紀、小西郁生：子宮頸癌術後に放射線療法を行い重篤な晩発障害をきたした5例。第122回近畿産科婦人科学会学術講演会、京都、2010年6月19日～20日

佐藤浩、鈴木彩子、馬場長、八木治彦、小阪謙三、万代昌紀、藤原浩、小西郁生：gastric metaplasia of female genital tract を背景に生じた卵管原発扁平上皮癌の1例。第122回近畿産科婦人科学会学術講演会、京都、2010年6月19日～20日

原田文、三瀬有香、金本巨万、馬場長、鈴木彩子、八木治彦、小阪謙三、万代昌紀、小西郁生：子宮筋腫により尿閉をきたした3例。第122回近畿産科婦人科学会学術講演会、京都、2010年6月19日～20日

土橋一成、吉村耕治、宮崎有、白石裕介、清水洋祐、井上貴博、大久保和俊、渡部淳、神波大己、兼松明弘、中村英二郎、西山博之、賀本敏行、小川修、小川まどか、八木治彦、小西郁生：子宮癌の動注化学療法後に発症した膀胱壊死の1例。第204回日本泌尿器科学会関西地方会、大阪、2010年9月27日

岡垣篤彦：ユーザーフレンドリーな電子カルテ—大阪医療センターの病院情報システム—。日本医療情報学会関西支部2010年度第3回MTE、大阪、2010年10月15日

岡垣篤彦、東堂龍平、是恒之宏、中島伸、和田晃、楠岡英雄：電子カルテの記載内容の質の評価の試み。第30回医療情報連合大会、浜松、2010年11月9日～11月22日

岩見州一郎、松原尚子、高橋悠里子、伊東裕子、西村史朋、八木治彦、山田成利、岡垣篤彦、伴千秋：子宮頸癌はどのリンパ節に転移するのか？大阪温知会総会、大阪、2010年2月26日

岩見州一郎、松原尚子、高橋悠里子、伊東裕子、西村史朋、八木治彦、山田成利、岡垣篤彦、伴千秋：子宮リンパ節転移の検討。平成22年度集談会、大阪、2010年3月5日

B-8

八木治彦：手術手技の基礎②。若手医師が修得しておくべき婦人科手術のポイント。京都大学産婦人科モーニングレクチャー、京都、2010年5月26日

八木治彦：婦人科領域がんの薬物療法。平成22年度がん専門薬剤師研修事業講義研修集中教育講

座、京都、2010年6月12日